

現代経済事情Ⅱ

日本の中小企業とアジア経済

高田好章

○製造業への人材派遣・業務請負を考える

モノ作り、かすむ正社員 国内回帰 請負が支える 電機を中心に工場を海外から日本に戻す動きが加速
 経営者「日本のモノ作りを死守した」と胸を張る

しかし、工場の閉鎖は回避され、雇用は守られたが、職場は大きな変化を余儀なくされた

請負労働者、推計100万人 電機、自動車メーカーが、正社員とパート社員を減らして請負に切り替えた。

電機産業大手300工場 2003年11月調査で現場従業員の18%が請負社員、3年で12%から急増
 「正社員が作るだけで終わる商品は失敗作」

技術の伝承が問題、次の世代へ、見渡すと若手は請負社員しかいない。

請負会社 全国津々浦々に求人センター網 高度成長期の集団就職や出稼ぎに変わる現代の集人メカニズム
 業務請負が雇用の調整弁になって製造業の業績改善や成長を支えた 請負の浸透で「柔軟で安価」になった。

ハローワークに寄せられる新規求人の28%が業務請負会社から

混成の現場 安全に死角 工場設備の不具合などの危険情報が共有しにくい。

ベテラン社員が現場で危険を避ける基本動作を若手に教えようと思っただけで断念する

現場の実戦力である請負労働者を軽視したままの工場の安全確保は見えない

日産危機の余波でリストラを迫られた部品メーカーが、正社員を減らし、日系人の請負社員を使い始めた

推計 外国人請負労働者30万人を超える 請負等の間接雇用 11万7千人

景気回復の現場には、正社員とパートタイマー、期間労働者、請負社員が同居する

待遇格差で亀裂が入り、技能伝承や安全確保の難しさが悩ませる

「言葉の通じない仲間」が増え始めた、業務請負会社からの日系ブラジル人、

「ウチの製品が生鮮食品になった」激しい生産変動に対応するため人員確保できる請負の比率を上げる

景気回復の現場には、正社員とパートタイマー、期間労働者、請負社員が同居する

待遇格差で亀裂が入り、技能伝承や安全確保の難しさが悩ませる

日本の外国人就労者は推計80万人、ここ10年で30%以上増加。

2004年4月5日、ついにトヨタ自動車の工場に初めて派遣社員が入った 製造現場への人材派遣が解禁
 研修を受けた若者は派遣社員としてトヨタ本体の工場に赴く

定着率の低さがいきなり表面化。派遣社員が増えると労働力の均質さが崩れる

カンバン、カイゼンは現場従業員の高い技能やモチベーションが前提 トヨタ式が試される

人材派遣会社、人材獲得を競う。高年齢者の派遣へ

正社員重視の動き：ソフトバンク、トヨタ

○今週の元気企業：アクロナイネン株式会社 和歌山 農機具用遠心クラッチ

○ビデオ鑑賞：

クローアップ現代「派遣社員は製造業を変えるか」NHK 2004年12月7日放送

○参考文献

日経産業新聞2004年4月14日～19日、2004年5月24日～31日 特集

質問・意見等は、高田のE-mail: ytakada@komazawa.com まで。

講義レジュメ、講義スライドの掲載ホームページ: <http://user.komazawa.com/~ytakada/kougi/>